

演題「小児の口腔と全身疾患」

神奈川県立こども医療センター歯科部長

池田 正一 先生



■ 略歴

- 1964年 東京歯科大学卒業
- 1968年 同大学大学院卒業
- 1968年 神奈川県立こども医療センター講師（小児歯科）
- 1971年 神奈川県立こども医療センター歯科部長
現在歯科部長
- 1975年 東北歯科大学助教授（小児歯科兼任）
- 1992年 東京歯科大学客員教授（障害者歯科）兼任
- 1981年 日本障害者歯科学会会長
- 1990年 日本小児歯科学会関東地方会会長
現在、厚生省HIV感染者発症予防・治療に関する研究班 歯科口腔外科小委員会委員長

■ 講演要旨

歯学教育は患者の全身症状を評価することに対して十分な教育はなされなかった。それはテクニック重視の歯学教育の中で歯科に来院した患者の医学的管理などは押しやられてしまったからである。しかし今日、老人人口の急激な増加と、医学的管理を受けている患者の増加により、歯科医療においても、全身状態を考慮した診療が要求されるようになり、いわゆる全身疾患に対する知識とその対応が重要になってきている。同様に小児医療の進歩により、重い病気の子供達が生き永らえ、しかも家庭で生活している。その結果彼等と一般診療の場で遭遇する機会も増えている。ただし、患者の持っている医学的背景はたいへん広範囲であり、最近の名著（L. F. Rose 著 Internal Medicine For Dentistry, 1990）では、歯科と関連のある疾患として、免疫・アレルギー疾患から遺伝・内分泌疾患に至る15節、202項に分類され、さらに疾患数は膨大な数にのぼる。

今回は限られた時間の中であり、私が21年間小児専門病院で経験した症例をもとに、先天異常の口腔所見から患者の診かた、また比較的頻度の高い血液疾患、心疾患などに対する具体的な処置につき述べたいと思う。